

国際派必携の資格に
チャレンジ!

NCB英会話教習所【編】

李 洙任【著】

NCB UNATE ANALYSIS TEAM【改訂】



国連英検 C級突破

The purposes of the United Nations are:

1. To maintain international peace and security, and to that end: to take effective collective measures for the prevention and removal of threats to the peace, and for the suppression of acts of aggression or other breaches of the peace, and to

〈改訂版〉

三修社

◆国連英検シリーズ◆

CDブック

国連英検B級突破 〈改訂版〉

CDブック

国連英検C級突破 〈改訂版〉

CDブック

国連英検D級突破 付：C級対策講座

国連英検A・B級必修単語1000 〈改訂版〉

CDブック

国連英検C級突破 〈改訂版〉

発 行——1999年11月15日 第1版

編 者——NCB英会話教習所

著 者——李 洙任

改 訂——NCB UNATE ANALYSIS TEAM

発行者——前田完治

発行所——株式会社三修社

〒110-0004 東京都台東区下谷1-5-34

TEL 03-3842-1711

FAX 03-3845-3965

振替 00190-9-72758

<http://www.sanshusha.co.jp/>

印刷所——萩原印刷株式会社

© 1999 Printed in Japan
ISBN4-384-01797-9 C2082

[R] 〈日本複写権センター委託出版物〉

本書の全部または一部を無断で複写(コピー)することは、著作権法上での例外を除き、禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、日本複写権センター(Tel.03-3401-2382)にご連絡ください。

NCB英會話教習所【編】

李洙任【著】

NCB UNATE ANALYSIS TEAM【改訂】

檢英連國 C級突破

The purposes of the United Nations are:

1. To maintain international peace and security, and to that end: to take effective collective measures for the prevention and removal of threats to the peace, and for the suppression of acts of aggression or other breaches of the peace, and to

《改訂版》

トラック対応表

Track	頁
C 級リスニング問題	
1 問題 [I] 指示文	158
2 問題 1.	158
3 2.	158
4 3.	158
5 4.	158
6 5.	158
7 6.	158
8 7.	158
9 8.	158
10 9.	159
11 10.	159
12 問題 [II] 指示文	161
13 問題文	161
14 Question 11.	161
15 12.	161
16 13.	161
17 14.	161
18 15.	161
19 16.	161
20 17.	161
21 18.	161
22 19.	161
23 20.	162
24 問題 [III] 指示文	165
25 問題文	165
26 Question 21.	165
27 22.	165
28 23.	165
29 24.	165
30 25.	165
31 26.	165
32 27.	165
33 28.	165
34 29.	166
35 30.	166

Track	頁
Practice Test	
36 問題 [I] 指示文	170
37 Question 1.	170
38 2.	170
39 3.	170
40 4.	170
41 5.	170
42 6.	170
43 7.	170
44 8.	170
45 9.	170
46 10.	171
47 問題 [II] 指示文	171
48 問題文	171
49 Question 11.	171
50 12.	171
51 13.	171
52 14.	171
53 15.	171
54 16.	171
55 17.	171
56 18.	172
57 19.	172
58 20.	172
59 問題 [III] 指示文	172
60 問題文	172
61 Question 21.	172
62 22.	172
63 23.	172
64 24.	172
65 25.	173
66 26.	173
67 27.	173
68 28.	173
69 29.	173
70 30.	173

CONTENTS

国連英検とは	7
語彙の問題	19
イディオムと表現の問題	45
対話文の問題	57
文法と語法の問題	83
長文読解の問題	125
リスニングの問題	151
Practice Test	170

はじめに

国連英語検定試験合格を目指している方々へ

各種英語検定試験の中で国連英語検定試験を受験されようとしているあなたは、どのような目的または目標をもって受験に臨もうとしておられるのでしょうか。資格を持てば将来有利だからとか、英語の上達の尺度にしようなどの具体的な理由のほかに、是非とも持っていただきたい大きな目標があります。それは国連英検の試験勉強を通じて世界情勢に敏感になり世界市民としての国際感覚を養っていただきたいということです。

刻一刻激動する時代にあって、日本が国際社会において責任ある政策をとっていくためには、国民一人一人が世界においての日本の位置づけを真剣に考え、正確な情報収集に興味をもつことが重要な基盤となります。語学学習とは、“世界市民となる”という究極的な目標のためのひとつの手段ともいえるのではないのでしょうか。

国連英語検定試験には大きな特徴がふたつあります。ひとつは国連の精神を英語の受験をとおして理解することで受験者が国際感覚を養い、世界平和に貢献する姿勢を築くことです。国連に関する知識の有無が合否判定に影響がある点で、国連英検は英語能力のみを判定基準にするほかの英語検定とは性格を異にします。受験を機に、新聞や雑誌で世界情勢や国連の動きに興味をもつようになったという声が受験者からよく聞かれます。

もうひとつの大きな特徴は面接や自由作文による自己表現力重視の点です。国際人の定義づけのひとつに、他のどの国民に対しても劣等感・優越感なしに、正確な情報と信念に基づく独自の判断をできることがあげられます。国連英検はこの表現力をのばすのに役立つ学習の機会、動機を与えてくれます。これらの特徴はB級以上に大きくあらわれますが、C級を今回受験される方も、いずれは特A級に挑戦できるようぜひ目標を大きく持ちましょう。そして最大目標として、英語を通じて真の国際人になることを目指そうではありませんか。

語学学習を成功させる有益なコツをお教えしましょう。それは上にあげたような「目標を設定すること」に加え、「楽しみながら英語学習を継続する

こと」そして「読む、書く、話す、聞くの4技能に関連し、相乗効果が期待できる学習方法をとること」です。継続、努力に加えてこれらの要因がなければ英語の習得は困難でしょう。日本の中学、高校での英語教育の批判がよく聞かれます。6年間で学習できる知識はかなりの量なのに、その知識が実際にいかされないのは学習の意欲をかきたてる意義、目標、そして何より語学を生きたものとして楽しく学習する環境が欠如しているからではないでしょうか。

私が学生のころの英会話の習得は、「血と汗」を要するもので、効果的な学習方法を見つけるのも一苦勞でした。今は豊富な教材が書店などにも揃っており、「楽しい」イメージで“語学学習は難しくない”と強調しているものが増えています。しかし楽しく学習することは安易な学習方法をとるということではありません。安易なイメージで英語の習得がいとも簡単にできると誇大広告をしている語学学校や学習教材は避けましょう。テレビの衛星放送の普及により24時間生の英語を聞き、日本にいながらにして英語にひたる生活も実現できるようになりました。ぜひ、楽しく学習できる環境づくりをして下さい。新しい表現や英語らしい表現に出会ったときに「覚えなくてはいけない」という姿勢をもつ前に、「こんなふうに言うのか」と異文化コミュニケーションを楽しむ姿勢を維持していくことが学習を成功させるキーとなり、あなたを合格に導くと信じます。

最後に本書の校正などの協力を得た柏田和斗、Martin McKeown、Kaye Petherick、Chris Moller、野田浩司各氏、そしてNCB英会話教習所の福岡校スタッフ、また編集の労をとっていただいた澤井啓允、小島和子両氏(三修社)に感謝の意を表したいと思います。

李 洙任

今回本書の改訂にあたって以下の点を見直しました。

- (1) 最近の試験の分析による、出題形式の傾向や対策。(2) 練習問題やプラクティステスト。(3) 参考教材や資料。

上記3点以外にも、情報が古くなっている箇所は最新の情報に替えています。本書を、受験者の方々が合格への道しるべとして活用して下さることを期待しています。最後に、この改訂版全体の校正に協力してくれたNCB英会話教習所教務企画部の神下周太朗氏に感謝の意を表したいと思います。

国連英検とは

国連英検の概要

国連英検を目指す人が増えてきました。実用英検に比べると国際的な視野の広がりを感じさせる内容になっており、国際化が進む現代のニーズにマッチしています。受験を通じて国際連合（以下、国連と略記）を改めて見直す機会ができていないことは、他の英語検定にはない大きな魅力です。また、われわれ日本人が国連職員（国際公務員）になろうとした時に、外務省が語学能力を審査するためのテストとして国連英検を用いていることでもレベルの高さが実証されており、受験者にとって大いにチャレンジしがいのある試験です。

国連英検は正式名称を国際連合公用語検定・英語検定試験と言い、(財)日本国際連合協会（以下、国連協会と略記）の主催で1981年に発足しました。第1回試験が行われたのは同年11月22日で、翌年1月第2次試験が実施されました。この記念すべき第1回試験に挑んだのは1,363名、うち359名が合格しました。国際化が進む現在の日本の状況を反映して、このところ知名度がどんどん高くなっています。それとともに受験者数も年々のびており、98年度までの受験総数は約60万人にのぼっています。

[1] 国連英検の目的

第1回試験の受験案内によると、「国際連合公用語検定の目的」として次の通り明記されています。

「国連公用語は、いわば世界各国間のコミュニケーションを円滑にする役割を果たすための言語です。航空機等の交通手段や通信技術の飛躍的な進歩に伴って、社会的・経済的関係がいつそう緊密になった現在、公用語の普及は世界的急務と言えます。」

国連協会では、公用語の普及・向上をはかるために検定制度を設け、国際的な友好と協力の担い手として真の国際人を世界に送り出すことを目的としています。」

また、99年度受験案内にも「この試験は、外国語を駆使して国際人とし

て活躍できる能力と常識などをどの程度体得しているかをテストすること」が目的であるとしています。このことから、国連英検が国連公用語のひとつである英語を自由自在に使いこなし、同時に良識ある国際人として世界の舞台で活躍できる人材の育成を主目的としていることがわかります。

〔2〕 国連公用語

国連に加盟している国は188か国（1999年10月現在）。これらの国々はそれぞれが独自の歴史・文化・言語を持っており、いまのところ、単一の「世界共通語」のようなものは存在しません。しかし、国連総会や国連の各機関での討議や記録については、ほとんどの国が容易に理解できる言語を使用するべきでしょう。このような考えから、国連はその設立時に、国連憲章第111条で中国語、フランス語、ロシア語、英語そしてスペイン語で書かれた憲章本文を等しく正文とすることを定めました。以来、国連で使用される言語は原則としてこれら5か国語とされるようになり、その後アラビア語が加えられ、国連総会等での公用語は現在6か国語となっています。そのうち、常用語として国連のすべての機関で共通して使われているのは英語とフランス語です。本来6か国語であるはずの国連公用語検定がまず英語から実施されているのも、このようなことが理由と思われます。

〔3〕 国連英検の意義

受験案内にはさらに、「同時に、この試験を通じて国連に対する一般的理解を深めることも重要な目標」と書かれています。これが実は国連英検の大切な意義なのです。

国連英検を主催する国連協会は、1947年に外務省外郭団体として設立された財団法人です。協会の主な活動は、民間の立場から国連協力を推進することで、とくに日本の国連加盟（1956年）には、加盟促進の国民運動を展開して30万人の署名を国連に提出するなど、大きな役割を果たしたと言えます。

国連協会のさまざまな活動はすべて国連普及運動の一環として行われており、国連英検の実施もそのひとつです。すなわち、試験を通じて国連に対する理解を深め、ひいては世界平和に貢献しようということです。そのため試験に国連関係の問題を取り入れ、とくにB級以上では *Today's Guide to the*

United Nations (国連協会著、講談社発行) を指定テキストとしています。受験者は試験を受けるために必ずこの指定テキストを読むので、必然的に国連を再認識し国際問題に注目することになります。このことから、国連英検の狙いは見事に成功していると言えるでしょう。

〔４〕 国連英検の特徴

(１) 国際人としての常識・資質が問われる

国連英検の最大の特徴は、英語での対応力が級によりさまざまな角度から問われることです。文法・文型の知識とともに、広い範囲の語彙力や口頭でのコミュニケーション能力が試される試験です。個々の年齢や立場に応じた英語の理解力は、国際人としてまず第一に要求される資質になるでしょう。

C 級は高校卒業程度を対象にしていますが、高校までどのように英語を学習してきたかがチェックされるのではなく、国際人に仲間入りできるだけの常識や英語力を備えているかどうかテストされるということです。したがって、新聞や雑誌で扱われる一般的な話題が出題されます。C 級試験では、B 級以上の指定テキストである *Today's Guide to the United Nations* の講読は義務づけられていませんので、直接国連に関する問題は出題されませんが、常識的なテーマが理解できるだけの知識の積み重ねが要求されるでしょう。高校生程度のリーダーや文法書のほかに、できるだけ多くの英文に接すると同時に、ラジオ、テレビ、テープなどを活用して対応力を養うことを心がけましょう。問題の内容はとくに難解なものではありませんが、なかなか予想しがたいだけに試験直前の一夜漬け式の準備は全く役に立ちません。やはり、日ごろからあらゆるものに興味を持ち、積極的に英語を吸収する習慣を身につけることです。

B 級は指定テキストからの出題があるほか、話題のレベルや内容がずっと高度になってきます。また、B 級以上では 2 次試験で面接試験が課せられ、外国人インタビュアーにより合否が決定されるので、口頭での表現力も重要です。C 級の次に B 級を目指すためにも、ふだんから各方面の知識を蓄えるようにしたいものです。

(２) 速読・速解が要求される

C 級は全 100 問のマークシート式筆記試験で、時間は 90 分間、時間に対

して問題量が多いのが特徴です。しかも、試験開始直後に実施されるテープによるリスニングテスト（30 問）は、放送時間だけで約 15 分を費やしますので、すばやい理解力と判断力が必要です。

どの設問を解答するにしても、英文の内容把握がまず前提となります。与えられる英文は 150 語程度の長文や、1、2 行の短文ですが、これらを短時間に読み取ったり聞き取ったりしなければなりません。これまでの、辞書を片手に英文を 1 語 1 語翻訳していくような取り組み方では、時間内に全問解答できないでしょう。試験で要求されるのは、文章の流れやポイントを早くつかんで大要を知ることです。また誤文訂正問題では、一読して不自然な用法を瞬時に見分けられる能力が要求されます。

このように、C 級試験で時間の制約も重要な要素となっていることは、実用性が重視されているためです。この点は TOEFL 試験にも共通しています。対策としては、まず文法をきちんとマスターすることと、多種多様の英語や英文に接することしかありません。問題量に圧倒されない心構えと、どんな話題にもついていけるだけの広い守備範囲を持つようにしたいものです。ときにかなり難解なイディオムや単語が見られることがあります。文脈や内容から推測して正解を導き出す応用力が試されているのです。

（３）リスニング能力で合否が左右される

C 級問題 100 問のうち 30 問はリスニングテストです。C 級の合否ラインは 60 点と推測されますが、もしリスニングテストの準備が不十分だとすれば、残り 70 問に 90% 近く正答できなければ合否は困難ということになります。逆に、リスニングで得点が稼げればたいへん楽になるでしょう。このことから、リスニングテストの成績いかんで合否が決まると言っても言い過ぎではありません。

（４）国連職員への選考試験に直結

将来国連で働くことを夢見る人は多いのですが、どのようにすれば国連職員（国際公務員）になれるかは、あまり知られていません。国連の日本人職員はまだまだ少なく、国別割り当てによる適正人数の半分以下であると言われ、長年の課題とされてきました。その原因はさまざまですが、雇用方法の問題（空席ポストの募集方式）と語学力の問題が大きいと思われます。そこで外

務省はアソシエート・エキスパートなどの制度を設け、志望者に国費で一定期間国連の各機関へ派遣する実地研修の機会を与えています。

この際、志願者が受ける選考試験（書類審査、語学審査、人物審査）のうち、語学審査に国連英検 A 級試験（1 次・2 次）が用いられています。国連英検の試験問題は、国連が職員を採用する際に使われる試験問題を参考にして作成されており、その点からも信頼性が高いのです。

国連で働くことを目標にする人にとっては、国連英検 A 級をクリアすれば夢が現実のものになりうるわけで、国連英検が目に見える具体的なターゲットとなるのです。

〔5〕 試験の概要

国連英検は特 A 級から E 級までの 6 段階にランク分けされています。受験者は評価基準と査定内容にしたがって自分の実力に応じた級を選ぶわけですが、おおよその見当をつけたら、過去の出題レベルや傾向をひと通り調べておくのがいいでしょう。試験は年 2 回行われ、午前（A、C、E 級）と午後（特 A、B、D 級）に実施されますが、隣接した級を同日の午前・午後に受験する（併願）こともできます。C、D、E 級は 1 次試験のみで合否が決定します。B 級以上では 1 次試験を通過すると 2 次試験を受験することができ、これにパスして初めて合格となります。

評価基準と査定内容

各級の評価基準と査定内容は次の通りです。

特 A 級	●評価基準 文法力、単語量を評価対象とするのではなく、英語の運用力と国際常識を基に、国際社会での適応能力を判定する。国際会議に参加して、意思を伝え、自由に討論できる能力を保持していること。知識、態度、判断力等、真に国際人と呼ぶにふさわしい人。 ●査定内容 第1次テスト：筆記テスト（テープテストなし） 第2次テスト：面談テスト（総合的英語力、適応力）。外国人とのフリートーキング（約15分）。第1次テスト合格者と第1次試験免除者が対象。特A級のみ（A級との併願を含む）第2次テストは東京で実施します。
A 級	●評価基準 一般論文の理解及び作成が出来、外国人との討論に参加し得る口頭表現力を備えていること。 一般社会人および大学生上級程度に相当。 ●査定内容 第1次テスト：筆記テスト（テープテストなし） 第2次テスト：面談テスト（外国人との面接約10分）。第1次テスト合格者と第1次試験免除者が対象。
B 級	●評価基準 英字新聞の概要を理解でき、外国での日常生活に必要な英語力を備えていること。大学生から短大卒業、一般社会人に相当。 ●査定内容 第1次テスト：筆記テスト（テープテストなし） 第2次テスト：面談テスト（外国人との面接約7分）。第1次テスト合格者と第1次試験免除者が対象。
C 級	●評価基準 高校英語の範囲内の英語力を身につけていること。国際的事象に関する簡単な文章を読んで理解できること。文法・文型については、高校英語の指導要領の範囲内。高校卒業程度。高校上級・大学初級・短大生から一般社会人まで幅広い人々に相当。 ●査定内容 筆記テスト：筆記とテープテスト（面談テストなし）。
D 級	●評価基準 主に中学英語の範囲内（語いはその限りでない）で、簡単な文章の理解と表現ができること。中学校卒業程度。中学上級から高校生向。 ●査定内容 筆記テスト：筆記とテープテスト（面談テストなし）。

**E
級**

●**評価基準** 中学2年程度の基本的な語いと文法や文型を中心に出題。簡単な基本英文や会話英語、短くてやさしい物語が理解できること。中学中・上級程度。中学生から高校初級者向。

●**査定内容** 筆記テスト：筆記とテープテスト（面談テストなし）。

○特A級、A級、B級の受験者は、あらかじめ『TODAY'S GUIDE TO THE UNITED NATIONS』（国連協会著）を必読のこと。

○出題範囲 特A級：全ページ、A級：Chapter 1～6、B級：Chapter 1、3、4

○各級の合格者には、合格証を発行します。

[6] C級の出題形式

すべてマークシート方式による、四者択一の設問が100問で、時間は90分間。マークシートは鉛筆で答を塗りつぶします。時間の割に問題量が多いですが、マークシートの解答欄には必ず全問記入するようにしましょう。問題指示文は日本語ですが、設問そのものは全て英文です。

(例) “At first” here means

- A. after careful consideration.
- B. as soon as we saw it.
- C. at the first price mentioned.
- D. despite its price.

これは長文の中の下線部の意味を問う設問です。また、リスニングテストの設問として次のようなものもあります。

(例) Australia was discovered by Dutch, Portuguese and Spanish ships

- A. in the 16th century.
- B. in the 17th century.
- C. in the 18th century.
- D. in the 19th century.

[7] C 級試験の概要

(1) 評価基準

国際的事象に関する簡単な文章を読んで理解できること、高校英語の範囲内の英語能力を身につけていることとなっています。ただし語彙については高校英語に限りません。対象となるレベルは、一般社会人および高校上級、大学初級、短大、専門学校程度です。

(2) 試験内容

空所への適語補充、対話文完成、イディオムの書き換え、誤文訂正、内容理解など、多種多様な問題形式によって基礎英語力が試されます。与えられる英文は、長文は 150 語前後のものが 3 ～ 4 題で、最近出題された内容として、「ユニセフについての問題」「地球温暖化の問題」「ゴミについての問題」などがあります。短文は 1、2 行のものが 30 問ぐらいで、日常的な内容が中心です。このほか、対話文が 10 ～ 20 問毎回のように出題されています。

テープテストは 3 題、それぞれ 10 問ずつ出題されます。会話形式の短文問題、150 字程度の長文を聞き内容に答える問題、そして 150 字程度の会話を聞き内容に答える問題で、聞き取りの正確さが問われます。テープテストは試験開始 5 分前に問題用紙を開いて見ることができるので、設問や選択肢からある程度放送される内容が予測できます。

(3) 試験対策

高校のリーダーと文法の教科書をマスターしておくことは不可欠です。語彙力をつけるために、単語集、イディオム集を活用しながら、*Student Times* など幅広いテーマの英文に接するようにしましょう。同時に、英語力だけでなく、一般常識も身につけておきたいものです。

テープテストに対しては、ラジオ、テレビの英語講座などを利用して生きた英語に触れることが必要です。付属の CD も利用しテスト形式に慣れて下さい。

●1次試験（筆記）	90分	100点満点
客観テスト		70点
テープテスト		30点
●2次試験		なし
●合格ライン		60点程度
●98年度応募者数		11,563名

国連英検と NCB 英会話教習所

NCB 英会話教習所（以下 NCB）は、運転免許方式による画期的な英会話スクールとして 1980 年に設立されました。運転免許方式と言われるのは、レッスンを学科教習と実技教習に分けた授業方法と、完全予約式・段階別少人数制の受講方法が、ともに自動車教習所に似ているためです。

クルマの運転と英会話にはいろいろな面で共通点があり、英会話の習得にも合理性、利便性、効率性が追及されなければならないというのが NCB の基本的な考え方です。従来の英会話スクールにつきものの、忍耐、難解、不自由といった固定観念を破って、NCB ではだれもが目標（クルマの免許に相当）に向かってレッスンを受け、それに到達できるまで教務が指導するという独自のパッケージシステムを取り入れています。その際の指導目標のひとつが国連英検です。

教育には教える側、教わる側双方に目標が必要です。とくに英会話の場合、目標である「話せる」とか「通じる」という基準が非常に曖昧で主観的になりやすいため、できるだけ具体的で客観的なスケールを持つことが双方にとって望ましいのです。そのうえ目標が資格になれば、生徒にとって一石二鳥でしょう。生徒は入所時に修了レベルがターゲットとして明示され、学科教習（日本人教師）と実技教習（外国人教師）を段階的に受講していきながら修了へと近づいていきます。教務サイドとしては、各段階の到達目標レベルを国連英検に置いて指導することによって、レベル管理を安定させることができるわけです。

国連英検のスタート（1981 年）と NCB の創立（1980 年）はほぼ同時期であったことから、NCB は国連英検の草創期からその主旨に賛同し、他校